

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はるがきた	3	◎互いの話に関心をもつことができる。(思・判・表 A(1)才) ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活(生活科)	◎【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	◎【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)才)	【態】進んで友達の話に関心を持ち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おはなし ききたいな	3	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	◎【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	◎【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なんて いおうかな	3	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	◎【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ）	◎【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ）	【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かく こと たのしいな	2	◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。(知・技(3)ウ) ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方(書写)	◎【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。((3)ウ)		【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どうぞ よろしく	4	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材(生活科) ☆好きなものの絵を描く活動(図画工作)	◎【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
こんな もの みつけたよ	3	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検(生活科)	◎【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)	【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
うたに あわせて あいうえお	3	◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材(音楽)	◎【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
こえに だして よもう	2	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩を音読する。 ■想像を広げながら詩を読む。	◎【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	◎【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よく きいて、はなそう	3	◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■応答したり、感想を伝えたりする。	◎【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	◎【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】興味をもって進んで友達の話を聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。

令和7度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばを さがそう	3	◎音節と文字との関係に気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■言葉集めをする。	◎【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。((1)イ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)		【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はなの みち	7	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ■想像を広げながら物語を読む。 ■物語の音読をする。 ☆動植物や自然に親しむことに関わる題材(道徳) ☆植物の種をまき育てることに関わる題材(生活科)	◎【知・技】 ・敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
としょかんへ いこう	3	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動(図書館活用)	◎【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ		【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かきと かぎ	3	◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	◎【知・技】平仮名を読み、書いている。((1)ウ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ぶんを つくろう	5	◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)力) ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■主語と述語を意識して文を書く。	◎【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。((1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)力)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ねこと ねっこ	3	◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	◎【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ）	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）	【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わけを はなそう	3	◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材（生活科・算数）	◎【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア）	◎【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ）	【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おばさんと おばあさん	3	◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■長音のある言葉を使って文を書く。	◎【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ）	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）	【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
あいうえおで あそぼう	4	◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ■言葉遊び歌を楽しむ。	◎【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つぼみ	9	◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材(道徳) ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動(図書館活用)	◎【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもちゃと おもちゃ	3	◎ 拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○ 語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■ 拗音のある言葉を使って文を書く。	◎【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。((1)ウ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おおきく なった	5	◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動(生活科) ☆観察時に写真を撮影(ICT活用)	◎【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア)	【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おおきな かぶ	7	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材(道徳) ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り(ICT活用)	◎【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はをへを つかおう	4	◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	◎【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
すきなこと、なかに	8	すきな こと、なかに 7時間(話・聞③、書④) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ■「好きなこと」を紹介する。 ☆好きなことを知らせる活動(生活科)	◎【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おむすび ころりん	6	◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り(ICT活用)	◎【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)	◎【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
こんな ことが あったよ	7	◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■出来事や経験を報告する文章を書く。	◎【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	◎【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
としょかんと なかよし	2	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動(図書館活用)	◎【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)		【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぼうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
こえを あわせて よもう	3	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩を音読する。 ☆好きな詩を探して読む活動の継続(図書館活用)	◎【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	◎【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
みんなに しらせよう	3	◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有(ICT活用)	◎【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ)	◎【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】積極的に友達の話聞き、これまでの学習をいかして質問や感想を述べようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばを みつけよう	3	◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)才) ■みんなで言葉遊びをする。	◎【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)才)		【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
やくそく	9	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材(道徳)	◎【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かたかなを みつけよう	3	◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	◎【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ)	【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書くようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
うみのかくれんぼ	9	◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材(道徳) ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動(図書館活用)	◎【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かずと かんじ	5	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■数え歌を書く。	◎【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ)	【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
くじらぐも	11	◎かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。	◎【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ((1)ク)	◎【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
まちがいを なおそう	3	◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。（思・判・表B(1)エ） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（知・技(1)ウ） ■正しい表記で文章を書く。	◎【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）	【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。（B(1)エ）	【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
しらせたいな、見せたいな	11	しらせたいな、見せたいな 10時間(書⑩) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動植物の観察記録文を書く活動(生活科) ☆知らせたい対象を端末で撮影(ICT活用)	◎【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	◎【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。(B(1)ウ)	【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かん字のはなし	7	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■漢字を使った短文を書く	◎【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。 ((1)エ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばを たのしもう	3	◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩や早口言葉を楽しむ。 ☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動(図書館活用)	◎【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
じどう車くらべ	8	◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。	◎【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
じどう車ずかんを つくろう	6	◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ■「じどう車しょうかいカード」を書く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動(図書館活用)	◎【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かたかなを かこう	2	◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。	◎【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どんな おはなしが できるかな	7	◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)才) ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)才) ○句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達と話したことを基にして物語を作る。	◎【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ)	◎【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)才) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)才)	【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
たぬきの糸車	10	◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。	◎【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）	【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日づけと よう日	4	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■唱え歌を作る。	◎【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
てがみで しらせよう	7	◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■伝えたいことを手紙に書く。 ☆お世話になった人に手紙を書く活動(生活科)	◎【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)	◎【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)	【態】書いた文章を積極的に見直しながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書くようとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おかゆのおなべ	9	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動(図書館活用)	◎【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)	◎【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なりきって よもう	3	◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ☆お気に入りの詩を見つける活動(図書館活用) ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流(ICT活用)	◎【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	◎【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
くわしく きこう	3	◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動(図書館活用) ☆話す練習を動画で撮影(ICT活用)	◎【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	◎【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】積極的に友達の話聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばで あそぼう	3	◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)才) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	◎【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。((1)才) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どうぶつの 赤ちゃん	11	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■書かれていることを比べて読む。 ☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動(図書館活用)	◎【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ものの名まえ	7	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(知・技(1)オ) ○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ■尋ねたり、応答したりする。	◎【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。((1)オ)	◎【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心を持ち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わらしべちょうじゃ	2	◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ○文章を読んで感じたことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話の読み聞かせを聞く。 ☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材(道徳) ☆いろいろな昔話を読む活動(図書館活用)	◎【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)	◎【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ)	【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かたかなの かたち	4	◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名の言葉を使って文を書く。	◎【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名：江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ことばあそびを つくろう	7	◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■言葉遊びを作る。	◎【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しむもうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これは、为什么呢	5	◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)才) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■二人で相談し、考えをまとめる。	◎【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)才)	【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ずうっと、ずっと、大すきだよ	9	◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)力） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)才） ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材（道徳）	◎【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）	◎【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)才） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)力）	【態】友達の考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
にて いる かん字	4	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ) ■似ている漢字を使って文を書く。	◎【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。 ((1)エ)	◎【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。 (B(1)ウ)	【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。

令和7年度評価規準

学校名:江戸川区立一之江第二小学校

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いい こと いっぱい、一年生	12	◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材(道徳) ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照(ICT活用)	◎【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)	◎【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。